



平成23年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 カスミ

コード番号 8196 URL <http://www.kasumi.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 俊明

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役上席執行役員 (氏名) 福井 博文

TEL 029-850-1850

四半期報告書提出予定日 平成23年1月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年2月期第3四半期の連結業績(平成22年3月1日～平成22年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年2月期第3四半期	163,263	0.6	4,875	20.6	5,147	17.2	2,027	△7.6
22年2月期第3四半期	162,365	—	4,042	—	4,392	—	2,194	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年2月期第3四半期	31.30	—
22年2月期第3四半期	33.88	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年2月期第3四半期	78,690	40,050	50.9	618.30
22年2月期	81,429	38,981	47.9	601.81

(参考) 自己資本 23年2月期第3四半期 40,050百万円 22年2月期 38,981百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年2月期	—	7.00	—	7.00	14.00
23年2月期	—	7.00	—		
23年2月期(予想)				7.00	14.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年2月期の連結業績予想(平成22年3月1日～平成23年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	223,100	2.9	6,100	9.9	6,500	6.6	3,000	8.7	46.31

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年2月期3Q 65,013,859株 22年2月期 65,013,859株

② 期末自己株式数 23年2月期3Q 239,920株 22年2月期 239,919株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年2月期3Q 64,773,857株 22年2月期3Q 64,774,895株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいております。そのため、様々な要因により実際の業績は上記予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想につきましてはP. 3(3)連結業績予想に関する定性的情報をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報.....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報.....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報.....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報.....	3
2. その他の情報.....	4
(1) 重要な子会社の異動の概要.....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要.....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要.....	4
3. 四半期連結財務諸表.....	5
(1) 四半期連結貸借対照表.....	5
(2) 四半期連結損益計算書.....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書.....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記.....	9
(5) セグメント情報.....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記.....	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は一部に回復の兆しがみえたものの、世界経済減速や円高進行により先行きの不透明感が高まりました。個人消費においても厳しい雇用・所得環境を背景に低調に推移しました。

このような状況の中、当社グループは、お客様に「いいね!」と共感していただける店舗づくりを目指し、良質な商品とサービスをロープライスで提供できる仕組みの確立に取り組みました。

営業面では「なっとくの品質を1円でもお安く」をテーマに、定番商品の価格を見直すと共に、曜日毎に特定の品目をお買得価格で提供する「曜日市」の充実、鮮度と価格面からその日一番お買得な青果物を提供する「一番野菜」「一番果実」の展開など、販促企画の強化を行いました。また、平成23年に創立50周年を迎えるにあたり、これまで当社を支えて下さったお客様への感謝の気持ちを込めた記念セールやプレゼント企画、イベントなどを開催しております。

ローコスト化の取り組みでは、店内作業において時間帯毎の作業量に応じた適正な人員配置を行うことで、売場のサービスレベル向上と総労働時間のコントロールに取り組みました。また、業務の見直しによるコスト削減を継続強化しました。

さらに、管理者のマネジメント能力向上を目的とした実践教育を継続強化し、その対象を営業現場の第一線を担うチーフ職にまで拡大しました。

出店につきましては、瓜連店（茨城県那珂市）、FOOD OFF ストッカー川口末広店（埼玉県川口市）の2店舗を開店しました。既存店の活性化では、茂原店を食の専門性をより高めた提案型店舗「フードスクエア」に、真岡店、千代川店、田尻店の3店舗をディスカウント業態である「FOOD OFF ストッカー」に業態転換しました。また、フィズ店、堀米店を閉鎖し、総店舗数は当第3四半期連結会計期間末現在138店舗となりました。

環境活動においては森林再生事業に取り組むことを決定し、平成22年10月に当社、森林所有者、いばらき森林づくりサポートセンターの三者間で「いばらき協働の森パートナーズ協定」を締結しました。茨城県笠間市の吾国・愛宕県立自然公園内の森林約4ヘクタールを借り受け「カスミ共感創造の森」として10年計画で整備を行う予定です。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の営業収益は1,632億63百万円（前年同期比0.6%増）となりました。営業利益は48億75百万円（前年同期比20.6%増）、経常利益は51億47百万円（前年同期比17.2%増）となりました。また、四半期純利益は20億27百万円（前年同期比7.6%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ27億39百万円減少（3.4%減）し、786億90百万円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ62百万円減少（0.3%減）し、224億63百万円となりました。主に現金及び預金の増加4億49百万円、たな卸資産の増加6億26百万円、売掛金の減少7億93百万円及び未収入金の減少5億54百万円によるものであります。固定資産は前連結会計年度末に比べ26億76百万円減少（4.5%減）し、562億26百万円となりました。主に有形固定資産の減少18億16百万円、敷金及び保証金の減少4億7百万円によるものであります。流動負債は前連結会計年度末に比べ15億14百万円減少（4.8%減）し、299億29百万円となりました。主に買掛金の増加14億85百万円、短期借入金の減少12億35百万円、未払法人税等の減少15億18百万円及び未払金の減少6億16百万円によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ22億93百万円減少（20.8%減）し、87億11百万円となりました。主に長期借入金の減少17億48百万円によるものであります。純資産額は前連結会計年度末に比べ10億68百万円増加（2.7%増）し、400億50百万円となりました。主に利益剰余金の増加によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前年同四半期末に比べ12億40百万円増加し117億86百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は64億42百万円(前年同四半期に比べ25億12百万円の減少)となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益40億2百万円及び仕入債務の増加14億85百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は19億8百万円(前年同四半期に比べ22億60百万円の減少)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出17億30百万円及びソフトウェアの取得による支出2億65百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は40億83百万円(前年同四半期に比べ2億81百万円の増加)となりました。これは、主に長期借入金の返済による支出28億34百万円及び配当金の支払額9億6百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の経営環境につきましては、個人消費の動向など不確定要因がありますが、当社グループは、引き続き良質な商品とサービスをロープライスで提供できる仕組みの確立に取り組んでまいります。お客様からご支援頂いている「曜日市」等の施策をより魅力のある企画に育てながら、お客様数の増加に努めてまいります。また、ローコスト化の取り組みを一層強化し収益の確保を図ってまいります。

平成23年2月期の連結業績予想につきましては、本資料の公表時点において、平成22年4月12日の決算短信で発表しました業績予想を変更しておりません。

